

津波到達地点へ植樹

米崎小児童「桜ライン」に賛同



植樹会で津波到達地点に桜の苗木を植える
米崎小児童ら12日、陸前高田市

りのほか、後方支援のあ
らましを伝える解説パネ
ル（英訳付き）40枚、写
真パネル約30枚などを展
示した。

開所式では、本田市長
が「震災を忘れない、忘
れさせてはならない。
（四角を避けて）後方支
援の取り組みから学び得
た教訓を広く伝えてい
く」と式辞。席上、同市
無休。

感謝状

野浄化センター敷地内に
「遍野災害ボランティア
支援センター」を設置

イア

し、3月まで被災地へ継
続的にボランティアを派
遣。北山工業は同センタ
ーの建設を請け負った。
また、東京大は11年5
月に陸前高田支所西館に
「救援・復興支援室」を
分室一を設け、同大に
よる復興支援プロジェクト
に関する情報の収集と
発信に努めている。

「幸マップ」 活用して

SAVE TAKATA
タブレット端末
先、新規開業などの情報
を網羅。2014年10月
に紙媒体の発行からウェ
ブ版に切り替え、翌月か
らiOSアプリ版も公開
し、パソコンやスマート
フォン、タブレット端末
で手軽に閲覧できるよう
にした。



SAVE TAKATAが設置した「陸前高田
復興マップ」閲覧用タブレット―陸前高田市。
―一本松英隆

同プロジェクトは201
1年11月に植樹を開始
し、4年目。津波の教訓
を後世に伝えるため、全
園の賛同者に苗木の購入
費などに充てる寄付金を
しみにしていた。

米崎小の植樹会では岡
本代表の講話を聞き、同
プロジェクトの目的など
について理解を深めた児
童が約100名。同校近
くの道路のり面に苗木2
本を植えた。
参加した大和田精菜さ
ん（12）は「苗木を植え
るために穴を掘る作業が
大変だった。金野空さ
ん（12）は「卒業記念に
なった。元気になってほ
しい」と話し、雛花を装
飾にしていた。

募るとともに、植樹会へ
の参加を求めながら、全
員1700円に及ぶ「桜ラ
イン」の完成を目指して
いる。

中庭の縁側広いに足を運べば沈丁花の香りが
強く鼻をついて、またぞろ昔のことが憶はれた。
今度はその時に案内された小部屋よりもさらに奥
まった広い座敷のよう。燦の向こうには人ひ
とのざわめきや聞こえた。数回の前で平伏してい
ると、中に入ってもらう少しおそばは近くへと促さ
れ、番四郎は腰を伏せかちにしておそばと膝を
前に合わせる。



番四郎はたちまち顔がほころんだ。これまで
延の障敷でもお前めのお言葉は家来のおを介して
ではかりたが、殿様との対面が許されるのは
「よりのご褒美で、主人自ら出仕事を務めた申妻
である」というものだ。
殿様は、思えばもうあの時の殿様ではないので
ある。だが今の殿様に姉君の面影を探りたい思い
、姉君のおかげで出世された姿を拝見したい気
がなかないとはいえなかった。

2015年3月17日岩手日日